

第12回青森県気象災害連絡会

日時：平成24年1月18日（金）13:30～16:00

場所：青森地方気象台（青森市花園1-17-19）

13:30～13:35 開会あいさつ（会長 児玉安正：弘前大学）

<特集：気象防災情報の伝達方法>

13:35～14:05「防災情報等の利活用アンケート調査結果」

・・・外崎 均（青森地方気象台防災業務課 防災気象官）

14:05～15:05「防災気象情報について [説明と現場見学]」

・・・工藤 敏（青森地方気象台技術課 予報官）

休憩

15:15～15:30「安全・安心情報メール配信システム」

・・・田村 中（(株)サン・コンピュータ 八戸事業部）

<気象講演>

15:30～15:45「白神山地の気象および炭素収支モニタリング」

・・・石田 祐宣（弘前大学大学院理工学研究科）

15:50～16:00 閉会のあいさつ

（敬称略）

要旨

<特集: 気象防災情報の伝達方法>

防災情報等の利活用アンケート調査結果

青森地方気象台防災業務課 防災気象官 外崎 均

気象庁が発表する各種防災気象情報の改善および有効活用を図るために、平成 22 年度に防災気象情報の利活用等に関する全国的な調査を実施し、昨年 5 月にその調査結果を公表した。調査対象として、自治体、報道機関、ライフライン、住民などに分け、注・警報の市町村単位での発表や、土砂災害警戒情報等のより高度な情報に対する認識度や防災活動への利用状況、防災気象情報の入手方法などについて調査した。

自治体の多くは、市町村別注警報や土砂災害警戒情報など、より高度な情報に対する認識度は高く、評価も高いのに対し、住民のこれらに対する認識度はあまり高くない。情報が高度になるに従い情報量が多くなり、住民への伝達について課題があることが示されている。報道機関も、高度化する情報への対応に苦慮している状況が読み取れる。

防災情報を発信する立場としては、情報の入手方法として、インターネットのようなプル型情報より、携帯メールや防災無線などのプッシュ型情報にたいする要望が高いことにも留意していく必要がある。

防災気象情報について

青森地方気象台技術課 予報官 工藤 敏

気象台で発表する防災気象情報には、警報・注意報・気象情報などがあり、大雨、暴風等の激しい気象現象、また長雨、日照不足、低温等の緩やかであるが長期に渡る現象によって、災害の発生が予想されるときに早めに警戒や注意を呼びかけ、災害の軽減を図ること目的として発表している。

重大な災害が発生するおそれがある場合に発表する警報には、大雨、暴風、暴風雪、大雪、高潮、洪水、波浪、津波などがあり、災害が起こるおそれがある場合に発表する注意報には、風雪、強風、大雨、大雪、高潮、波浪、洪水、津波などがあって、これらの内、雷、乾燥、濃霧、霜、なだれ、低温、着雪、着氷、融雪など、警報のない注意報だけのものもある。

また、気象情報については、災害に結びつくような顕著な現象の発現が予想される場合の注意報や警報に先立って注意を喚起する予告的な役割、警報、注意報が発表された後の経過や予想、防災上の注意を解説する補完的な役割、記録的短時間大雨情報や社会的に影響の大きな天候についての解説などの役割がある。

その他、土砂災害警戒情報や竜巻注意情報など発生現象を対象にした情報もある。これらのなかから、大雨警報や竜巻注意情報の発表の流れやタイミングについて説明した。防災気象情報の

発表を検討するための、実況天気図の解析や数値予報資料の検討、実況監視作業についての流れ、注意報・警報発表における現象の量的見積もりや防災事項の検討など作業についての説明と、予報観測室及び実際の機器を使った気象情報作成作業の現場見学を行った。

安全安心メール配信サービスの事例紹介

田村 中（株式会社サン・コンピュータ 八戸事業部）

サン・コンピュータの安全・安心メール配信システムは、現在県内でも複数の自治体様にご利用いただき、それらの経験と実績による豊富なノウハウのもと、公共サービスとしてのメール配信サービスが円滑に運営されることを第一に設計されております。

配信情報：気象関連（気象警報・注意報、地震、津波、土砂災害、竜巻など）、火災、ライフライン、交通（規制・事故）、消費者関連（振込め詐欺など）、防犯関連（不審者情報、声掛け事案など）

導入実績：八戸市様（ほっとスルメール）、三沢市様（情報メール in 三沢）、むつ市様（防災かまふせメール）、十和田市様（駒らん情報メール）

オプションサービス：学校メールサービス、アンケートサービス、二ヶ国語配信サービス

[以下、討論コメント]

長尾 純一（アップルウェーブ 放送部）

（アンケートより「民放局は市町村別警報に放送枠が割けない現状があるのでは？」との話に関連して）

アップルウェーブでは、警報基準の細分化（市町村別）を活用しており、そのための放送枠も十分確保できている。ただ、住民向けアンケートではそれらの認知度が低い現状が見られるので、様々な情報をどのようにわかりやすくリスナーに伝えられるか、改めて社内で討議したい。

岡前 憲一（青森県気象予報士会）

（防災気象情報の利活用に関する問題点）

青森県気象予報士会では、これまで防災気象情報の利活用について議論したことはありません。しかし、大雨や洪水など大きな災害に繋がった気象現象については、会員による勉強会で時々取り上げています。その中で、人的被害を防ぐ手段について話題になったこともあります。たとえば、昨年の紀伊半島での台風による豪雨の際では、雨の音が大きいために非難を呼びかける防災無線が聞こえなかった、という話を聞きました。その他に、パソコンや携帯メールなどが扱えない高齢者も相当いらっしゃるかと思いますが、そのような方々へどのようにして情報を伝えるか、ということも考えていかなければならないかと思っています。

多田 久

(防災情報の効果的な活用と気象災害連絡会の活用について)

気象防災情報の効果的な活用には、地域の実情にあった伝達方法や内容が必要で、そのためには情報発信者と地域の利用者の意志疎通と共同作業が欠かせない。当連絡会は、気象情報を発信する側や現場で防災を担当している方々が参加しているので、具体的な活用の面などから議論・検討してみてもどうか。当連絡会としても議論の結果を現場に持ち帰ることや、防災に対する提言を地域や県民に発信・提言していくことが連絡会としても必要ではないだろうか。

<気象講演>

白神山地の気象および炭素収支モニタリング

石田 祐宣 (弘前大学大学院理工学研究科)

森林の持つ気候緩和機能として、水源涵養、洪水防止、高温乾燥化の抑制や炭素固定などが挙げられる。一方で、世界自然遺産である白神山地のブナ林は、地球温暖化により消失してしまう可能性がある。これからの環境変化をモニターするべく、弘前大学では白神自然環境研究所と奥赤石にある微気象観測タワーにおいて連続気象観測を行っている。この2地点の観測期間が漸く1年を超えたので、気候の特徴をまとめたところ、通年で気温が低く、降水量が低標高の割に非常に多いということが定量的に分かった。白神自然環境研究所の気象データは、webで公開を開始したので防災に役立てたい。また、ブナ林の炭素固定量の経年変化を調べたところ、夏期の気温が高い年に炭素固定量が低下する傾向が見られた。今後温暖化が進むと、森林の炭素固定量が低下する可能性が高いことがわかった。